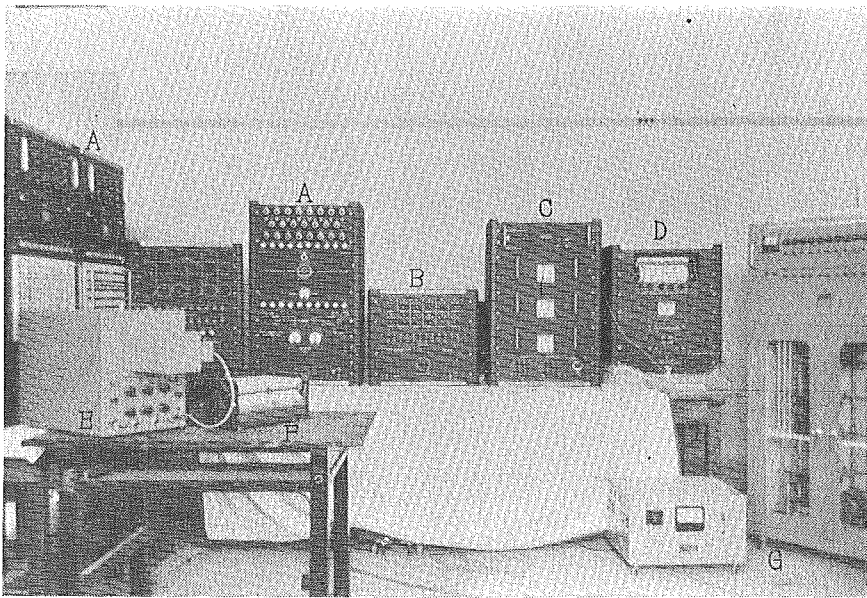


# 洛友會々報

(題字は鳥養会長の執筆になつたものです)

京都市左京区吉田  
京都大学工学部  
電気工学科教室内  
洛 友 会

工学研究所に設置されている  
低速度型電子管式アナログ計算機



A 線型素子 B 非線型素子 C 掛算器 D X-Y記録装置及曲線追跡器  
E フォトフォーマ F ペン書きオツシロ G サーミアナライザ

## ボストンごぼれ話

昭二 清野 武

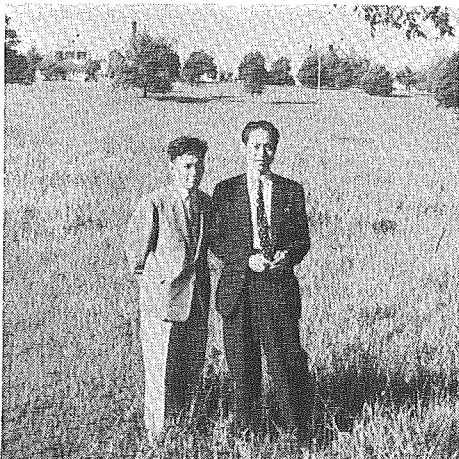
序にかえて

ボストンは京都に似ているとよくいわれる。たしかに人口も同程度であり、共に古い都会であり、学部でもあり、観光都市であり、市の財政はあまり豊かでなく(失礼!)、冬は寒く夏は暑く……といった具合である。ボストンに住む日本の留学生、或いはボストンを訪れる旅行者の多くは京都を愛すると同じ意味でボストンを愛し、また少数ながらボストンおよびボストニアを嫌う人達は京都および京都人を嫌うのと同じ意味で嫌っているように思われる。

このボストンと京都が姉妹都市の契りを結んだという。具体的にどういふことなのかは知らないが何となく喜ばしいことであるらしい。

そこでわが京都の姉妹都市について何か紹介して御参考に供したいところであるが、わずかに十箇月の滞在ではたいして内容のある話のできる筈もなく、ついウソを書く恐れもなしとしない。予めお許しを乞う次第。

(この小文はジョージ・ウエストンの著書『ボストンの道』に負うところ)



飯塚啓吾君(大学院)と共にラットランド州立療養所に植松邦彦君(京大土木大学院)を見舞う。後方が療養所の病棟

### 聖ポトルフの町

ボストン附近の土地を先住のインディアンは SHAWMUT と呼んでいたがその意味は明らかでない。ここに住みついたピュリタン達は彼等の土地を「その地形から」さらに TRIMOUNTAIN と名づけた。今も FREMONT という名の通りが残っている。彼等がその町を正式にボストンとよぶようになったのは一六三〇年からである。はもちろん彼等の故国イングランドの町の名を移したものである。話は田卓の騎士の時代にさかのぼる。イングランドの一漁村にサクソンの僧が住んでおり村民から尊敬されていた。人々は彼を『ポートホルフ』と呼ぶようになった。これは Boat Helper をアングロサクソン式に発音したものである。彼は死後聖者の列に加えられるが、その時すでに彼の名は少し変化して『聖ポトルフ』となっていた。そして彼の



Windsor, Vermont にて (筆者)

この附近は Covered bridge が数多く保存されていることで有名、Connecticut River に近く広大な牧場が開けている。

た町は Saint Botolph's Town と呼ばれることになった。ところがわずかに五十年ほどの間にこの町の名は甚だしく歪曲された。すなわちまず『聖』が脱落し、BOTOLPHS TOWN → BOTTLE STON → BOTOLSTON → BOTT STON → BUSTON → BOSTON となり果てたのである。つまりボストンのボはポートのボであり、トンはタウンに当るわけである。

今ボストンにも『セント・ポトルフ・ストリート』という通りがあるが、これとボストンの関係を知る人は少ない。毎年八月十七日(聖ポトルフの日)には米英兩國のボストンでそれぞれお祭りが行われるという。ボストンは自然に出来上った町であり、ニューヨークのように(或いは京都市のように)東西および南北に走るストリートとアヴェニューによって碁盤目で作られているわけでは

ない。ワシントン・ストリーートのよ  
うな目抜き通りも昔のままにボス  
トンの道は昔の牛どもが作ったのだ  
とまことしやかに書いてあるが、実  
はデタラメであるらしい。結局昔の  
人は地理的条件にさらかわすのが原  
因らしい。

通りの名前も複雑で無統制で憶え  
にくく判りにくい。  
AVE. ST. WY. RD. IN. PL.  
CUTTER などなかなかいい加減に  
用いられているので、これらの言葉  
から道の大小を判断することはでき  
ない。

ただ比較的新しく開けた埋立地  
(特にバックベイ)ではかなり規則  
的なの区劃が出来ていて、ごく一部で  
はあるが系統的な銘名法が採用され  
ている。すなわち公園(パブリック  
・ガーデン)の西側の道が、アメリ  
カ・ランド、その次がパークレー、次が  
クランドン、タートマス、エクセ  
スター、フェアフィールド、グラウス  
ター、ヒアフォード、という具合に  
AからHまではアルファベット順に  
なっている。従って「姉三六角タ  
錦」とやらなくても道の順番は容易  
に出てくる。ただし、Hの次におな  
じみのマサチューセツツ・アヴェニ  
ューが来て規則を破っている。

ピーコン・ヒル

ポストニアンは彼等の市を「ハブ」  
と呼ぶ(the Hub of the Universe)。  
その自信にはいささかエキセキす  
るならば、ピーコン・ヒルこそふさ  
わしいのである。  
ピーコン・ヒルは今でこそごく  
だらかな丘であるが、その昔は三つ  
の峰をもつかなりの山であったらし  
い。この「三つの山」(トレンツト)

の中心の峰が本来のピーコン・ヒル  
(のろしの丘)。その西の峰がマウン  
ト・ヴァーノン(これも通りの名に  
なっている)、才三の峰は更に三つ  
のピークに別れ、それぞれコトソ  
ン山(失礼!)と呼ばれる。ピー  
コン・ヒルは一度も使われること  
なく廃止された。

しかし十八世紀の半ばを過ぎ革命  
の機運が熟した頃、市民は再びこの  
丘にタールのパケツをかつぎ上げ、  
英軍の攻撃に備えた。

革命後ポストンの急速な発展に伴  
い、十九世紀の始めからこの丘を削  
って河と海を埋め立て、約九十年が  
かりの大事の後に、ポストンの面  
積はもとの二倍以上に拡大された。  
ポストン・ユニヴァーシティ、シ  
ンフォニー・ホール、美術館などの  
ある地域は、今もバック・ベイと呼  
ばれているが、これはチャールスリ  
ヴァーが湾状に拡がった場所を埋め  
立てて得た土地なのである。  
この結果ひろべったくなったピー  
コン・ヒルは上流階級の人々の住宅  
地となり、今もその面影をとどめて  
いる。家々の扉には古風なノッカリ  
レール(靴の泥ガラス)が残り、紫色  
に変色した板ガラスが誇りやかに窓  
を飾っている。更に驚くべきことに  
は、街の一部に玉石を敷きつめた舗  
道があるが、保守的なポストニア  
ンは近代的な舗装に対して根強いレ  
ジスタンス精神をもちつづけているら  
しい。  
彼等の「煉瓦」に対する執着も大  
変なもので、車道が近代化された現  
状でも、いまだに凸凹の煉瓦歩道が  
少くない。約十年前ピーコン・ヒル  
の西シダ・ストリートで起った小  
事件はポストニアンのつむじ曲りを  
面白く伝える。  
この通りの昔も旧式の煉瓦道で

あったのを市のお役人達は敢てこれ  
を「改良」し「近代化」しようとの  
誤りを犯した。ツルハシとシャベル  
で武装した人夫の攻撃に対し、シー  
ダ街の奥さん達は連、近くの通りに住む  
おかみさん達は彼等の愛するレンガ  
を守る最も効果的な戦術を發明し  
た。すなわち「座り込み」である。  
市の命令に忠実な人夫達は最善を  
尽したのであったが、婦人の座って  
いる部分の煉瓦を掘り出すことは敢  
てしなかつた。婦人と争っては勝  
味のない国での話である。  
この戦はついに市民側の勝利に終  
った。  
或る好奇心に富む紳士が後日修復  
されたこの歩道の上で、勇敢な主婦  
達のおしりの形を検出しようと試み  
たが、これは徒勞に終わったので  
ある。婦人達は椅子に座っていたた

ガイドナー美術館

ポストンとその隣接都市のもつ美  
術館、博物館はかなりの数になるが  
圧倒的に有名なはいままでもなく  
ポストン美術館である。日本の古美  
術のコレクションは東京に次ぎ、古  
代エジプトに関する資料はカイロに  
次ぐといわれている。  
しかしここでは、それほど有名で  
もなく、規模もはるかに小さいなが  
ら、極めて特色のある美術館の一つ  
を紹介したいと思う。  
正しくはイザベラ・スチュアート  
・ガイドナー・ミュージアムとい  
う。ポストン美術館の裏を通るフェ  
ンウェイから西を望むと、木立の間  
に古風なイタリヤ式の建物が見え  
る。これが昔のガイドナー夫人の私  
邸として、彼女の個人の美術館とし  
てはるばる彼女の遺言により、生  
前の状態をそのままに、市民に公開  
された(無料)。  
彼女のむしる奇矯な生活について  
はさまざまな伝説が生れ、画家サー  
ジェントとの間のロマンスは一編の  
小説になっている。しかし、われわ  
れの興味をひくのは後家さんの恋物

語ではなく、美術品の蒐集に対する  
彼女の異常なまでの情熱である。  
ニューヨークの富豪の娘として生  
れ、ポストンの富豪ジョン・ガイド  
ナー氏と結婚した後も、ポストニア  
ンらしく振舞ったことを好まず、こ  
さらしく当時の習慣にそむく行為を業  
しんだように思われる。  
上流婦人がお茶を飲むとき、彼女  
は女だてに、前世紀末のことであ  
る話ではない、前世紀末のことである  
犬の代りにライオンの子をすつて  
トレンツト街を散歩し、ミモザの  
木の枝に腰掛けてお客を迎え……  
行儀のよいポストニアンを驚倒させ  
たのである。  
ジョン・シンガー・サージェント  
に描かせた彼女の肖像画も当時(一  
八八八年)は大変なセンセーション  
をまき起したといわれる。ほんの少  
し胸の開いた黒い服を着て、首と腰  
に真珠を巻きつけた姿に、今では驚  
く人もないであろうが、当時として  
は胸や首をあらわに出すだけで、ピ  
ューリヤダの後姿をカンカンに怒ら  
すのに十分だったらしい。御主人の  
命令でこの絵は直ちに引込まれ、  
彼が死ぬまで公開されなかつた。  
この絵から受ける感じでは彼女は  
決して美人ではない。むしろ普通の  
おばさんのように見え、エキセント  
リックなほどの強い個性は感じられ  
ない。しかしどこか一種の妖気によ  
うなものがあったよっている。  
一八九八年にガイドナー氏が死  
すると、彼女は富と時間を持ってあま  
らしい。主治医は彼女に何か薬を  
するようによすめた。彼女の選んだ  
「療法」は美術品の蒐集であった。  
まずフローレンスで十五世紀の宮  
殿を買入れ、これをバラバラにして  
ポストンのバック・ベイまで運ばせ  
るとの姿に建て直したのが一九〇二  
年のことである。

すでに所貯していた西歐の絵画や  
彫刻はこの邸におさめ、さらに余生  
を美術品の蒐集に捧げた、一九二四  
年死去するまでに彼女の集めた美術  
品は二十一の部屋を満たしている。  
これは温室風にガラス屋根で蔽わ

れ、一年中美しい花が咲き乱れてい  
る。週四回の公開日の午後には、タ  
ペスリーの間に室内楽が演奏される  
が、これも彼女の生前の習慣を守っ  
ているのだという。  
彼女はその巨万の富を美術品の購  
入にすりへらし、晩年はむしる貧困  
の状態にあったという、しかし彼女  
の残した富は今やポストンの誇りと  
なり、このユニークな美術館の存在  
はポストンを訪れる者の目と耳を楽  
しませている。  
(清野教授は昨年八月末出発、米国  
マサチューセツ工科大学に留学せられ  
本年八月十九日に帰学されました。  
編集者記)

人間ドック

大七 乙葉 真一

大学を出て今年で満四十年にな  
る。五月に四日間亘つてアベック  
で記念大会を箱根、東京で催しお互  
の健康を祝福した。  
四十年を顧みると世の中の変遷、  
科学の進歩の急激と偉大さには一驚  
せざるを得ない。四十年前には米一  
升二十銭でラジオもテレビもない世  
の中であつた。  
この四十年、世の中の荒波にもま  
れて何時の間にか年令も六十有余年  
という平均年令も越えた老人(？)  
となつてしまった。今尙才一戰に立  
って活躍して居る人もあるが又そ  
ろ孫のお守りでもその日を過ごして  
いる人もある。二十七人の卒業者中  
九人は已に物故せられた。惜しい事  
である。  
先日のクラス会でも四十五年、五  
十年の大祝賀会迄皆元気生き延び  
る事を約束した。それには健康が才  
一の問題である。  
去年の十一月から今日迄半歳余り  
の間に私は小学校の友人、中学校、  
高等学校(相馬龍雄君)、大学(石井  
浅八君)、職場の同僚と都合五人各  
れも同年輩の人を失つたのは残念で

現在の医学の發達は病気の早期発見および治療により相当長生きする事が出来る様になった。故人となつた人の中には健康に委せて医師を嫌ひ治療に意を用いなかつた人が数人ある。人間の機能を考へて見ると実に微妙で不可思議なものである。然し六十有年と使つてゐると目・耳・齒・心臓・肝臓その他各所にゆるみが出来、何人ものこががたつて来ている。壊れかかつた機械は補強をなし、注油をし、ペンキを塗り替へてこれ以上痛めない様大切に取扱う事が必要である。小児に小児科がある様に老人にも老人科があつて然るべきである。医学界でも漸くこの方面の研究が急激に進歩研究せられ、肺病、癌なども早期発見により治療する事が出来る。

私も医師の勧告によりこの人間ドックに入る事にした。ころばぬ先の杖である。日本赤十字社中央病院では四健科といつてゐる。四十歳以上の人の健康の意味である。現在希望者が多く毎週二床しかないで申込んでから入院迄約三ヶ月かかる。月曜日午

土	金	木	水	火	月
消化管X線検査 (胃潰瘍、胃癌等)	腎臓縮試験、フイッシュペーク氏法 (腎萎縮、等)	膀胱撮影、胆石、(胆嚢炎等)	血圧(オ二回)	PCR(癌)	ムコリルズルホンフタレイン排泄試験、(腎炎萎縮腎)
身体計測 (身長、体重、胸囲)	肺活量	血液検査 (梅毒血清反応、血沈)	肝機能検査 (モイレンングラハト値、高田反応)	血清蛋白濃度、血清アルブミン値	コバルト、カドミウム反応
ヘパトサルファレイン試験、(肝臓病、黄疸、等)	一般検尿 (腎炎) 検便 (寄生虫卵、潜血反応)	(潰瘍、癌) 検痰 (結核菌)	(胃潰瘍、癌)	皮膚科	耳鼻科
眼科	心電図科	外科	整形外科	神経科	外科
総合試験結果発表	表説明				

前八時に入( )土曜日午後三時迄で終る六日間の左表のスケジュールによつて毎日身体のあらゆる検査がなされる。入院料は金二万六千円である。毎日の試験は大體三時迄に終了するのでそれ以後は一寸の外出も出来、室には単独電話もついているのでホテルに生活している様なものである。少しも身体に不安を感じてゐる人は一度ドック入りをして自分の身体状態を知り、之を保護し、治療される事をおすすめする。頑健な人でも用心才一である。

### 疎音を謝す

大 四 吉 野 錦 三

激甚なる暑さの折柄益々御清穆の段お慶び申上げます。私も腸の疾患にて二回も鞍馬口病院長美馬博士の開腹切除を受け、仕上り間際に又今

胸部X線透視及写真	眼科	心電図科	外科	整形外科	神経科	外科
-----------	----	------	----	------	-----	----

度は肝臓をいたため前後三年に亘つする間病院に滞在しました。人間には治癒という偉大な力があり精神力も作用して自然に恢復するとの事、その説の賜もか次才にほりかけ去る六月二十九日の大安吉辰に退院して只今自宅で加療静養しておられ、毎日病院から栄養の注射に來られて、段々とよくなり相で乗作用する、段々とよくなり相です。然し半寝半坐の状態未だ歩行は出来ませんが後四五週間で歩けるだろうと医師は申します。初春の賀状を頂戴しっぱなしで洵に失礼しました。その頃は丁度生か死か判らな時でありました。

有りがたいた事に病院の暑い部屋に較べますと自宅が逆も涼しいので本當に結構だと思つております。又食養生がなかなか六ヶ敷いのですが自発的に嚴重な食養生をいたして、皆々様のおかげで又今快出來ると御挨拶旁々お正月のお詫申上げ度く貴意を得た次才で御座います。

### 洛友会ゴルフ会

七月十五日午前十時スタートにて一四名の参加により東京西郊小金井カントリッククラブで本年二度目のゴルフ会を開催しました。この日は天気恵まれたもの、すてに真夏の太陽がカン／＼と照りつけて全員汗にまみれながら敢闘しました。

井登兵氏、オ4位は同じく三菱電機、の市村宗明氏、オ5位は電源開発の林潔氏、以上が入賞者であつた14位までであるが、會員の希望により赫々たる戦績の発表を遠慮します。ただビービー賞は姫野細の奥原芳督氏が獲得されたことを申添えます。

懇談会の席上、奥原氏より動議があり、東京支部ゴルフ会の会長を長老の宮崎駒吉氏、幹事を新人の相木一男氏が選任されました。なお次回は鈴木龍吉氏の御世話により十月三日(金)霞ヶ関カントリークラブで開催の予定であります。ろん現在入会してない方も他支部の方でも奮つて御参加願います。會員以外の方は左記へ御連絡下さい

東京電力中央電力所送電課長 相木一男 電話〇七二二一七

氏名	Hdcp	Out	In	Out	Gr	Net	Ord
卒年	29	19	—	—	—	67	11
氏名	13	11	—	—	—	111	1
氏名	14	16	—	—	—	132	—
氏名	15	16	42	54	132	108	—
氏名	14	18	55	55	159	113.5	—
氏名	15	19	42	40	121	114	—
氏名	6	36	54	46	159	117	—
氏名	7	30	54	56	147	120	—
氏名	10	30	59	54	165	—	—
氏名	10	25	—	—	—	—	—
氏名	15	36	—	—	—	—	—
氏名	17	32	—	—	—	—	—

### 消息の二三

から梅雨で心配していた灌漑用水も、台風一七号でふんだんに充たされ、引きつづく土用のかんかん照りで四年連続の大豊作を頻りに伝えられている。残暑になつてからも水銀柱はぐんぐん昇り数十年来の記録を示した所もあるといった調子で多少の台風があつたとしても、まづ大豊作は間違いないであろう。

この暑い夏に各位より寄せられたお便りを謝すと共にその二三をお伝えいたします。先づオ一に

〇会報発行の創めからお世話になり軽妙な筆を振つて居られた工藤寿男君が「最近急に目が弱くなり読んだり書いたりする事に苦痛を覚えるやうになりました。……遂に老体の仲間入りを致しました。」

本会として晴天の霹靂で、私としては実に一方の腕をもぎとられた感じがいたします。折角御療養の上捲士重來を望んでやみません。次に

〇洛友会創立の功労者であり、生れつきの世話役である乙葉真一君が、「……だんだん無精になつて困ります。医師の勧告でドック入りしました(記事参照)消化器気管支系統は正常でしたが循環系統が衰弱して來ていた事が分りました。心臓肥大大動脈硬化血液貧血愈々隠居を命ぜられました。仕方がありません。無理をしなければよいそうですからあと十年頑張ることにしよう。」

まことに祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の感を深くしました。是非十年といはず夫れ以上頑張つて下さい。

〇オ3には吉野錦三君よりの便りも(別項参照)、同君はさしもの重病も人間には治癒性という偉大な力があり精神力も作用して自然に恢復に……一向はれつつある御様子、折角の御養生をお祈りします。

(三三・八三〇) 山村記

洛友会名簿発行について

昭和三十四年用の名簿は目下編集... 中では十一月下旬には配布いたしま...

会費領収

七月十六日より九月十日まで 到着の分

昭和三十二年度

- 五 飯田 善作
八 丸 保一
二八 井垣 眞生
三一 川崎 淳

昭和廿八年度

- 昭一 青山 威朗
一六三 武田 正三
二二 鈴木 久三

自昭和廿九年度

- 昭二三 陰山 以介

自昭和三十年

- 昭三 近沢 重起
二八 近藤 輝夫

自昭和卅一年度

- 昭二三 山本 泰治
二七 井上 清

自昭和卅三年度

- 大一〇 岩本 勝弥
一五 林 芳樹
昭二 熊谷 三郎
一〇 荻野 正一
一一 吉田 重三
一二 馬淵 重三
一三 熱田 勤
一四 堀 眞幸
一五 二村 忠元
一六三 窪田 修二
二五 東 暉久
二八 新 沢田新一郎
三〇 佐々木昭夫
三一 向田 麗
立石 孝雄

昭和三十三年度

- 七月十六日より九月十日まで 到着の分
明三七 吉田 二郎
三九 中島 卓爾
四四 岡村 金蔵
四四 河合 賢三
大 寺村 賢次
二 春名 道喜
三 堀 鹿造
三 川崎 圭三
四 安藤 昌三
五 三宅 豊
六 辻 忠夫
七 岡崎 龍夫
九 岡添 柳吉
弘田 亀之助
松本 一雄
一〇 沼倉 三郎
一一 大串 長成
一二 山元 海門
一三 竹林嘉一郎
一四 奥谷 久彦

自昭和卅三年度

- 一五 飯村 三六
昭二 知藤 芳誉
一 山崎 武夫
二 宮地 冬樹
三 小寺 昇
四 村松堅三郎
五 林 紀一郎
六 山崎 愛三
七 百東 極
八 村上 真治
九 北脇 保喜
一〇 平田 憲一
一一 小管 菊夫
一二 石垣 徳次
一三 吉田 洪二
一四 中沢 亮二
一五 竹内 貞美
一六 石川 清
一七 川守田孝吉
一八 伊藤 政幸
一九 宮本 恒造
二〇 小野 恒造
二一 戸山 信芳
二二 川中 哲哉
二三 川村 孝三
二四 旭 晴晃
二五 吉田 辰雄
二六 井上友一郎
二七 和田寿太郎
二八 植田 正一
二九 徳岡 毅
三〇 前田 道生
三一 中島 和武
三二 島津 武夫
三三 早東 嘉夫
三四 富永 清進
三五 平野 進

自昭和卅三年度

- 一四 藤田 隆正
一五 中川修一郎
一六 山村 龍男
一七 小南 光夫
一八 則内 由二
一九 河辺 茂
二〇 野田 三郎
二一 片木劍三郎
二二 山本 福雄
二三 井上 篤武
二四 福井 篤夫
二五 清水修次郎
二六 荒井 清次
二七 上之園親佐
二八 山本 洋雄
二九 渡辺 浩
三〇 中川 三郎
三一 磯野 寿
三二 南野 幸雄
三三 大橋 徹次
三四 阿部 鉄郎
三五 小川 清
三六 岩本 市平
三七 吉山 一郎
三八 丑田 信一
三九 富田 盛夫
四〇 細田 寛勝
四一 中村善三郎
四二 野津 周秀
四三 佐々木喜一
四四 北野 正男
四五 桜井 豊
四六 永見 晴彦
四七 吉田 正彦
四八 大谷 清二
四九 小川 平助
五〇 久民 実
五一 岡本 茂樹
五二 藤原 俊三
五三 立川 昭三
五四 藤原 進
五五 龍沢 善信
五六 津田 和己

自昭和卅三年度

- 二八 近藤 耕三
二九 高谷 昭孝
三〇 井上 博文
三一 橋本 和夫
三二 豊崎 耕平
三三 中尾 英夫
三四 橋本 宗久
三五 大木 実
三六 谷村 実
三七 樋野 正雄
三八 高松 昭
三九 松尾 淳一
四〇 森 匡明
四一 西村 武
四二 安原 磯人
四三 江塚 明
四四 小西 達夫
四五 廣 達夫
四六 蒲生 容仁
四七 石原 賢司

予告

かね申しておきましたわが電気教室の六十周年記念会は十一月十六日(日)に開きます。当日は鳥養会長の慰霊祭について京都ホテルで記念パーティーを催します。奮って御出席下さい。(別途案内状発送致します。)

印刷所 株式会社石田大成社印刷所